

5. 主要面談者リスト

**バングラデシュ側**

**1) Economic Relations Division, Ministry of Finance (ERD)**

Mr. Iqbal Mahmood, Deputy Secretary

海老名 捷彦 専門家、Economic Cooperation Advisor, JICA

**2) Local Government Division, Ministry of LGRD & Co-operatives (LGD)**

Mr. Abdus Samad Mallick, Joint Secretary

Mr. Ahmed Fazlur Rasid, Deputy Secretary

Ms. Nasima Begum, Sr. Assistant Secretary

**3) Office of the Deputy Commissioner (DC), Mymeishingh**

Mr. Shafiul Alam, D.C.

Mr. MD. Abul Kashem Talukder, Additional Deputy Commissioner (General)

Mr. S.M. Ashfaque Hussain, ADC

Mr. Mainuddin Ahmed, Assistant Director, Local Government ADLG

Mr. Monjur Mohammad Shahriar, Assistant Commissioner & Magistrate

Mr. A.K.M. Maruf Hassan, Assistant Commissioner & Magistrate

Ms. Nasima Begum, Senior Assistant Secretary, LGD

**4) Office of Upazila Nirbahi Officer (UNO) in Upazila**

Mr. Mir Jahurul Islam, Upazila Nirbahi Officer

Mr. M.A. Quddus Akanda, Senior Upazilla Fishery Officer

Dr. Md. Golam Mustafa, Resident Medical Officer

Mr. Md. Nazrul Islam, Upazilla Engineer, L.G.E.D.

Dr. Md. Abul Hossain Mia, Upazilla Livestock Officer, Ishorganj

Mr. Md. Abul Kalam Bhuiyan, Sub Assistant Engineer, DPHE

Mr. Matiur Rahman Talukader, Upazilla Agriculture Officer

Mr. Md. Amir Ali, Upazilla Education Officer

Mr. Karak Kanti Pandit, Agriculture Officer

**日本側**

**1) 在バングラデシュ日本大使館**

柿沼 孝治、二等書記官

**2) JICA バングラデシュ事務所**

坂本 隆 所長

小林 美弥子 所員 (シャプラニール案件担当)

プロジェクト実施側

1) シャプラニールダッカ事務所

白幡利雄、シャプラニールダッカ事務所長

Mr. S.M. Nurul Islam, Program Officer

Mr. Rashidul Bari, Program Officer

Mr. Syed Akram Ullah, Accounts Officer

Mr. Mamindra Kumar Datta, Administrator

Ms. Anindita Ghosh, Programme Assistant

2) イシヨルゴンジ地域事務所 1

Mr. Kamruzzaman Khan, Field Coordinator

Mr. Md.Saiful Islam, Accountant

Mr. Towhidul Bari, Program Supervisor

Ms. Jahanara Begum, Field Organizer

Mr. Fazlul Karim, Field Organizer

Mr. A. Rahim Talukder, Field Organizer

Mr. Gonesh Ch. Bishwas, Field Organizer

Ms. Israt Jahan, Field Organizer

Ms. Sadika Aktar, Field Organizer

Mr. Mizanur Rahman, Field Organizer

Mr. Gurudas Chandra Barman, Field Organizer

3) イシヨルゴンジ地域事務所 2

Mr. Monjur Morshod Monshi, Field Coordinator

Mr. Sirajul Karim, Accountant

Mr. Shalahuddin, Program Supervisor

Ms. Shamsun Nahar, Field Organizer

Ms. Nazma Akhter, Field Organizer

Mr. Hasan-al-Mahfuz, Field Organizer

Mr. Monnaf Ali Prodhan, Field Organizer

Mr. Pinto T. Gomes, Field Organizer

Mr. Harun or Rashid, Field Organizer

Mr. Kaniz Fowara Nahid, Field Organizer

Mr. Mizanur Rahman, Field Organizer

Mr. Motiur Rahman, Field Organizer

4) イシヨルゴンジ地域事務所 3

Mr. Monir Hossain, Field Coordinator

Mr. Moniruzzaman Gazi, Accountant

Ms. Kalpona Rani, Field Organizer

Mr. Shah Jalal, Field Organizer

Mr. Rekha Rani Saha, Field Organizer

Mr. Hossain Ali, Field Organizer

その他、相互扶助グループや村委員会のメンバー

バングラデシュ開発パートナー事業 自己評価シート

作成日: 2003年12月23日

1. 対象国名・事業名		貧困層のエンパワーメントを通じた住民参加型農村開発計画	
2. 事業実施団体名		特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会	
3. 事業実施期間		2001年8月1日から2004年7月31日	
4. 実績の確認		実績	
4-1 投入実績	当初計画	実績	備考 (計画からの主な変更点の理由など)
4-1-1 日本人	日本人		
	業務責任者1名 × 10.5ヵ月	職員の退職により、2002年度から業務責任者(プロジェクトマネージャー)の変更が生じたものの、業務は中断なく遂行された。	
	調整員1名 × 13ヵ月	当初計画通り業務を行った。	
	ダッカ事務所担当者1名 × 18ヵ月	当初計画の担当者が2002年度から業務責任者となったことから、もう1名の駐在員が担当者として充当され、間断なく業務を遂行した。	
	バングラデシュ人		
	ダッカ事務所担当者3名 × 36ヵ月	当初の計画に加え、海外業務や会計報告業務の増加により、2002年度以降は総務主任と会計担当者も業務従事者として加え、体制を強化した。	
	地域事務所責任者3名 × 36ヵ月	当初計画通り業務を行った。	
	フィールドワーカー32名 × 36ヵ月 / 2名 × 28ヵ月	事業実施期間中、スタッフの退職や状況の変化に応じて必要な人員の確保を行ってきた。現状で26人のフィールドワーカー、8人のサービススタッフが従事しており、ほぼ計画通りの投入が行われた。	
	資機材: 簡易トイレ/手押しポンプ井戸/モーターバイク/コンピュータ等	以下のものが資機材として投入された。なお、簡易トイレと手押しポンプ井戸については活動成果を参照のこと。 モーターバイク10台、コンピュータ9セット、基本ソフト1本、デジタルカメラ1台、大容量スタビライザー1セット、コピー機1台、エアコン1台、携帯電話3台、ファイルキャビネット4台、机3脚、椅子10脚、デジタルビデオカメラ1台	
	施設: 地域事務所兼研修所建設/小学校改築/道路補修等	地域事務所兼研修所の建設を3カ所で実施した。内訳は以下のとおり。 イシヨルゴンジ1地域活動センターの建設と補修 イシヨルゴンジ2地域活動センターの増築(宿泊研修施設、トイレ)と補修 イシヨルゴンジ3地域活動センターの建設と補修(現在実施中)	シャプラニール附からの資金提供による小学校改築と道路補修は行わなかった。これは住民の主体性を引き出し、ひいては事業の持続可能性を高めるための実施上の判断だった。
	研修: 5名 / 5名 / 5名 (近隣国へ)	インド、西ベンガル州コルカタとその周辺地域へ2回の派遣研修を実施した。内訳は以下のとおり。 2003年3月: ダッカ事務所スタッフ2名、フィールドスタッフ28名、計10名を派遣。有機農法の活用 法および地方行政とNGO・住民との連携事例を学ぶ。 2003年12月: ダッカ事務所スタッフ23名、フィールドスタッフ4名、UNO、ユニオンチエアマン4名、グラムシヨルカルチエアマン3名、計15名を派遣。地方行政とNGO・住民との連携事例の視察および有機農法を研修(現在実施中)。	一回目の実施によって派遣の効果が確認されたことにもない、人数を拡大してシャプラニールのスタッフだけでなく、地方行政および住民側からの参加を実現した。

<p>4-1-2 バンガラデラデシュ創</p>	<p>受益者負担分: 識字学級参加費 井戸・トイレ自己負担分 積み立て貯金の活用 小学校改築や道路 補修時の労力</p>	<p>受益者負担の金額と割合は徐々に上げる方向で調整 識字学級参加費:一人30TKを全島が負担。 手押しポンプ井戸:一基につき2,800TKを受益者が負担。(設置にかかる総経費の約3割に相当) 簡易衛生トイレ:一基につき400TKを受益者が負担。(設置にかかる総経費の約7割に相当) *イシヨルゴンジ3の活動地域では、分割返済を前提にした完全な実費負担を実現。 積み立て貯金の活用:各相互扶助グループでは自分たちで積み立てた貯金に加え、シャバラニールからの マイクロクレジットを あわせて小さくさまざまな収入向上活動を実施 道路補修時の労力:日本側の投入としては道路補修を行ななかった。 住民が自らの発案と労力を提供する形で約500メートルの村道改修が 実現し、さらに他の事業を検討中。</p>	<p>上述のとおり、小学校の改築は行わなかった。 上述のとおり、</p>
<p>4-2 活動、成果実績</p>	<p>地域行政: 道路補修 郡開発官とアシスタントによる技術 指導提供等</p>	<p>住民のニーズに応じた各種の技術研修を、郡開発官の協力を得て行った。 養魚、野菜耕作、牛や家畜の肥育研修実施時、技術に講師として参加してもらった。 牛のブクラン接種を目的とした集会へ出張サービスにきてもらうといった協力関係を築いた。ほかに補助産駒や保健ボランティアを郡病院等の公共保健機関へ派遣するなど、研修の機会も提供してもらった。</p>	<p>上述のとおり、投入としての道路の補修は行わなかった。</p>
<p>(注)成果指標は活動計画(目標)になっていると判断されるため、本案件ではそれらを統合して取り扱う。</p>			
<p>①対象貧困層の能力が向上する</p>	<p>当初計画</p>	<p>実績</p>	<p>達成できなかった点とその要因/達成が促進された理由および今後の対応方針</p>
<p>①-1)成人識字学級を実施</p>	<p>①-a)成人識字学級を1550名に対して実施</p>	<p>1,100人に対して実施済み。次年度約200人を新規受益者として予定しているため、最終的に約1,300人となる見込み。</p>	<p>事業計画時の相互扶助グループ育成方針を変更し、新しい属性のグループ結成へと比重を移したこともない、投入を控えた。</p>
<p>①-2)グループ研修を実施</p>	<p>①-b)グループ研修を3440名に対して実施</p>	<p>315人の個人および121のグループに対して会計やグループ運営手法等の研修を実施済み。 本年の残りおよび次年度の予定をあわせると、445人の個人と158のグループとなり、現在の1グループの平均人数19人で計算すると約2,500人が研修の受益者となる見込み。</p>	<p>上述のとおり、新しいグループの結成が進められてきたが、これらに対する投入内容の検討は、ある程度時間を経てから行う必要があるため、投入を控えつつ、今後のニーズを検討している。</p>
<p>①-3)保健ボランティアを養成</p>	<p>①-c)保健ボランティアを70名育成</p>	<p>38人の養成を完了しているほか、次年度新たに30人を予定しているため、ほぼ当初計画通りの実績となる見込み。</p>	<p>各グループへの日常的なソーシャルワークの中で、基本的な保健衛生知識の普及はある程度可能だが、保健ボランティアの役割も大きいため、計画通り実施している。</p>
<p>①-4)相互扶助グループを育成・指導</p>	<p>①-d)相互扶助グループを450グループ育成</p>	<p>既存の314グループに加え、新しい属性のグループを60、計374グループが結成済み。これらのグループ育成を継続するほか、次年度には後者のタイプのグループをさらに90結成する予定のため、合計で当初計画を上回る460グループとなる見込み。</p>	<p>既存のグループでは最も貧しい層に属する障害者や寡婦、エスニック・マイノリティ、孤児、高齢者等が排除されることが202年度に実施された調査で確認された。そこで最貧困層の人々のみを対象とした新しい属性のグループ結成に比重を移すと同時に、既存のグループも実績と主体性に応じて貯蓄活動を中心とした非自立的なシステム(貯蓄シヨムティ)を選択できるようにした。</p>
<p>②基礎的公共サービスが提供される</p>	<p>②-a)手押しポンプ井戸を155基配布。</p>	<p>99基がすでに配布されているほか、今年度の残りおよび次年度の予定数を合計すると、当初計画を上回る168基となる見込み。また他にも再個別に実施した井戸が17基あり、事業終了までには50基近くなることが予想されるため、これもあわせれば計画を大幅に上回る実績となる。</p>	<p>グループへの日常的な啓蒙活動の効果もあわせ、清潔な飲み水を確保する必要性に対する意識の高まりは目覚ましいものがあり、ニーズに応じて計画を上方修正してきた。</p>

パングラデシユ開発パートナー事業 自己評価シート  
シャブラニール

<p>②-2)簡易トイレの配布</p>	<p>②-1)簡易トイレを1650基配布。</p>	<p>1,103基が配布済みで、今年度の残りおよび次年度の予定数を合計すると1,490基となる見込み。</p>	<p>これまでの経験から、単に安い値段で配布するだけでは実際の設置率・利用率が高まらなから、配布後のモニタリングに力を入れたよう体制を強化してきた。そのため、当初計画よりは若干少ない実績となった。しかしながら、受益者負担率もかなりの高率に達しているにも関わらず、こうした実績となっていることは、村人の意識とニーズの高まりの現れであると考えている。</p>
<p>②-1)助産婦の養成</p>	<p>②-1)助産婦を70名養成。</p>	<p>72名の養成を完了しており、すでに当初計画を達成している。次年度さらに30人の新規養成を予定しているため、事業終了時には当初計画を大幅に上回る見込み。</p>	<p>安全な出産に対するニーズは非常に高く、また公共の医療サービスが貧弱な農村部において、助産婦の養成は急務であると判断し、計画を上方修正した。</p>
<p>②-1)補習授業の実施</p>	<p>②-1)毎年400名の児童が補習授業を受ける。</p>	<p>2001年度までは155人が補習授業を受けていたが、2002年度以降、活動計画の見直しにより、本プログラムは中止されている。</p>	<p>施設、人員ともにまだまだ不足しているとはいえ、徐々に公立学校の整備が進められている中、シャブラニールが補習授業の機会を提供し続けることで、かえって住民の依存度を高める傾向が見られたため、中止とした。しかし、イシヨルゴンジ3の活動地域には、住民が土地とお金を出し合う形で小学校低学年の児童に対する寺子屋の運営が行われており、現在51人の子どもが教育を受けている。</p>
<p>②-1)郡およびユニオンの開発担当官との連携強化</p>	<p>②-1)郡の各種開発官等によって貧困層へのサービスが提供され各ユニオンのヘルスセンター等が活性化される。</p>	<p>シャブラニールとの連携により、各種研修の講師を引き受けてもらったほか、出張サービスの試みも行った。各チエアマンからの報告では、ユニオンのヘルスセンター利用者数も増加してきているとのこと。</p>	<p>2003年9月にユニオン選挙 同5月にUNOの交代、同6月にグラムシヨルカリの精成があつたことなどから、正式な協議の場の設定など、具体的な協働システム作りまでには至らなかった。</p>
<p>③経済的向上機会が提供される</p>	<p>③-1)マイククロレジットの実施</p>	<p>315のグループに対し、約892万TKのマイククロレジットを供与済み。今年度の残りおよび次年度の予定数を合計すると約400グループとなる見込みで、1グループの平均人数を13人として、受益者は5,200人となる。メンバーは原則一世帯から一人のため、当初計画を大幅に上回る予定。</p>	<p>単にマイククロレジットを出すだけでなく、きめ細かなソーシャルワークとあわせて実施していることから、住民のシャブラニールに対する期待感が高まったため、確実に活用されるものを慎重に選定しつつ、計画を上方修正した。</p>
<p>③-2)収入向上技術研修を実施</p>	<p>③-2)収入向上のための技術研修を620名にに対して実施。</p>	<p>215名が養魚、家畜、足踏みミシンなどの各種技術研修を受講済み。今年度の残りおよび次年度の予定数をあわせると約420名となる見込み。</p>	<p>技術研修についてはニーズに応じるだけでなくその効果が望めないため、受講者の選定を慎重にしたこと、また研修後のフォローアップの体制を考慮して計画を下方修正した。</p>
<p>③-3)小規模インフラの整備</p>	<p>③-3)道路等を改修して流通を活性化させる。</p>	<p>投入として小規模インフラ整備は行わなかった。</p>	<p>イシヨルゴンジ郡はJICAの小規模インフラ整備事業の範囲内に位置しており、すでに道路整備が行われた地域が多かつたこと、また住民の主体性をより引き出すことを目的に、投入は行わなかった。</p>

4-3 プロジェクト目標の達成状況	当初計画(指標)	実績(指標以外でプロジェクト目標の達成度を表すと思われる情報があれば、記入してください)	達成できなかった点とその要因/達成が促進された理由および今後の対応方針
インゴルゴンジ郡対象ユニオンの貧困層のエンパワメントが実現する。	a) 貧困層による相互扶助グループの20~40%が成熟し自立段階に達する。 b) 成人識字率を1300人が修了する。 c) 8750人が保健衛生やジェンダー、社会意識等についての啓蒙活動を受ける。 d) 6500人が清潔な飲み水や衛生的なトイレを使用。 e) のべ5000世帯がマイクロクレジットおよび自己資金を活用して収入向上活動に取り組む。	既存の314グループのうち、133のグループが、自分たちの力で今後も自主的な活動を続けていきたいと考えている。本事業においては相互扶助グループが技術移転の相手、すなわちカウンセラーパートナーにあたり、こうしたグループが外からの援助やケアがなくても自立して活動が継続できるようにすることが当初計画の達成指標として設定されていた。その意味で既存のグループのうち約42%が自立的な段階に達しているといえる。ただし、事業終了時点で貯蓄シミュレーションの形式を選択したり解散するグループのあることが考えられるため、最終的には35%程度となる見込み。 昨年度までに814人が修了時の試験に合格しており、今年度と次年度の受講生のうち8割が合格すると見込み。 既存のグループおよび新しい属性のグループのメンバー、その他の個人の受益者をあわせた合計は現在、5,232人となっている。事業終了時点では約5,900人となる見込みであり、その全員が保健衛生や社会意識等の啓蒙活動を日常的に受けている。 手押しポンプ井戸は一基につき40人、また簡易衛生トイレは一基につき一世界(5~6人)が受益者の見込みとして設定されており、現時点までの実績で計算しても当初計画を大幅に上回る約9,500人が受益者となる。井戸、トイレともに設置後の使用状況を頻りに確認しており、ほぼ受益者と考えられる全員が利用しているといえる。なお事業終了時の受益予定者数は約14,000人となる見込み。 マイクロクレジットの返済率は現在約98%となっているほか、事業への投資状況の確認と助言を日常的に行っているため、ほぼすべての受益世帯が収入向上活動に取り組んでいるといえる。事業終了時点では当初予定通りの実績となる見込み。	ここでは直接的に自立を意味するグループのみを取り上げたが、新しい属性のグループや貯蓄シミュレーションの場合、必ずしもグループの自立を目指すものではないため、今後は各グループや個人のニーズや考え方に応じて多種多様な目標を設定していくことが必要となる。 試験に修了した受講生の数を示したが、4か月間の授業そのものは平均8割を超える出席率でほぼ全員が参加し通しているため、その意味では当初計画を達成しているといえる。 ここでは直接的なグループメンバーのみを示したが、その他にもメンバーやスタッフが共同で国際識字デーや「世界人口デー」などを記念するキャンペーンを実施するなど、不特定多数に裨益する事業を行っており、実際の受益者数ははるかに多くなる。 事業計画時には、井戸・トイレともに受益者数をかなり控えめに見積もっていたが、設置後のモニタリング体制を強化したこととともない、利用率が大幅に向上した。 新しい属性のグループや貯蓄シミュレーションのメンバー個人に対するマイクロクレジットの供与も始まっているため、実際の受益者数はさらに多くなっている。
4-4 上位目標の達成状況(見込み)	当初計画(指標)	実績(見込み)(指標以外でプロジェクト目標の達成度を表すと思われる情報があれば、記入してください)	備考(上位目標達成が見込まれるための条件など)
インゴルゴンジ郡対象ユニオンの貧困層の生活が向上する。	a) 貧困層の生活実態(資産・貯蓄・消費)が向上する。 b) 最貧困層の比率が減少する。	本事業開始時にベネズエラ調査を行わなかったため、具体的な数値として生活向上の割合を示すことはできない。しかしながら1994年および1999年の2回にわたってシャブナニールが独自に実施した生活実態調査の結果によれば、貧困層全体の生活は年々、確実に向上してきていることがわかっている。日常的にソーシャルワークを行っているスタッフの実感として、新品種の導入などの農業投資が自立して増えたと感じている。また、郵便場でのインターネットからもその傾向は確認できている。 最貧困層の実態を把握する調査から分かったことは、本当の意味での最貧困の人々はなかなか表に現れにくいということであり、その意味で統計的な把握は現状では困難である。	少なくとも、これまで誰からも相手にされなかった人々へのアプローチを開始したこと、最貧困層の生活実態と地域社会における実情を徐々に明らかにしていけるものと考えている。

	<p>c) 就学率が上昇する。</p>	<p>郡全体の就学率は現在、およそ65%という統計数値があり、これは事業開始時の50%台からは上昇しているものの、計算根拠等の確認が必要と考えている。ただし本事業期間中、一定の出席率を条件にした少額の奨学金制度(毎月現金が支給される)が開始されたこともあり、各ユニオンチェアマンやスタッフの賛意としても状況は改善されてきているといえる。</p>	<p>上流したシャプラニール独自の生活実態調査からは、全体的な生活の向上と教育状況の改善とは必ずしも一致しないことが分かっており、住民のシャプラニールに対する依存度を高めずにとらうたら効果的な活動が可能か、職業を続けている。すでに結成が開始されている子どもグループの活用も含めて検討中。</p>
	<p>d) 子どもの栄養状態が改善される。</p>	<p>MUACなどの統計数値がないため、実感でしかないものの、全体に改善されてきているとの認識が各ユニオンチェアマンの間にある。家計の収入が増えたことにもちろん、収穫増や栽培品種の拡大など、農業の状況変化も大きな理由として考えられている。また、子どもが病気にかかった頻度が目に見えて減ってきているのを住民が実感しているとの報告が、本事業で養成した保健ボランティアや助産婦からあがってきている。</p>	
	<p>e) ユニオン選挙等で貧困層や女性が進出する。</p>	<p>シャプラニールのグループメンバーだけをとってみても、2003年2月に実施されたユニオン評議会議選挙で計6人(うち女性3人)がメンバーに選出されるなど、住民自治に貧困層が加わるようになってきた。また8月に初めて行われたグラムシヨルカルの結成時には、これら6人のほか、22人が一般メンバーとして選ばれている。</p>	
<p>4-4 当初計画以外の活動(外部条件の変化などに対応して行った活動)</p>	<p>内容 特になし。</p>	<p>実施時期</p>	<p>実施理由、目的、効果</p>
<p>5 事業の総括</p>	<p>質問項目</p>	<p>回答</p>	
<p>5-1 妥当性</p>	<p>(1) 事業対象地の問題点、受益者のニーズをどのように把握したか、また、それに対応した的確な事業内容となっていたか (2) 受益者(対象、規模)の選定は的確だったか。また、直接受益者以外への波及性はあるか。 (3) 計画内容は対象地域における政府開発計画や方針と整合性が図られていた(いる)か。</p>	<p>シャプラニールはシヨルゴング郡において99年度に活動を開始し、以後一貫して住民による相互扶助グループの結成と育成に努めてきた。これらグループが毎週開催するミーティングの中で地域の状況や問題点について常に話し合いもなされておき、そのプロセスを経て抽出される住民のニーズに応じて活動内容を柔軟に変化させてきている。その手法は継続的かつ、きめ細かなソーシヤルワークにもとづいており、一過性のニーズ調査とはその質を異にしているといえる。</p> <p>所有耕地がエーカー以下であること、日雇い労働、リキシヤ引き、使用人、行商人など、不安定かつ低収入の仕事に就いていること、従来から設定している受益者選定基準に従って活動を定める一方、実績を真摯に身につけておき、その中で受益者のより一層明確な選定を行ってきた(上流した新しい属性のグループがこれにあたる)。また地方行政との連携に力を注ぎ、広く地域全体への裨益を意図しつつ、独自のキャンペーンや村芝居活動などを通して活動の浸透を図った。</p>	
<p>5-2 効率性</p>	<p>投入の多寡、タイミングの遅れはなかったか</p>	<p>ハングラデシユ政府が掲げる「2018年までに貧困人口を半減させる」という目標を達成するため、農村開発政策として力点が置かれているのは農村住民の所得向上と農村部の経済社会基盤の整備、地方行政の強化や住民参加の促進である。本事業は貧困住民の能力育成、公共サービスの整備、経済開発のつづきを基本コンセプトとするもので、これらは政府の開発方針と完全に一致するものである。しかしながら現在、政府が制定を進めているマイクロクレジットに関する規制についてはその議論の方向性を確認しつつ、当方のそれと重なる点があるかどうか見極めていく必要があると考えている。</p>	<p>行政との連携に役立つ事例を提供してくれる近隣国のパートナーを選定するのに時間がかかり、海外派遣研修の一回目の実施が遅れたが、2回目は予定を超過する積りで実施することができた。また活動の拠点となる事務所の新規建設、移動作業が若干遅れて開始されたものの、活動内容そのものに大きな影響を与えようとするものではなく、おおむね順調に進んだ。</p>

5-3 インバウト	(1) 受益者および受益者以外の住民に予期しなかったプラス・マイナスの影響はあったか。	<p>活動自体は長年の経験の中で組み立ててきたものであり、特に予期しない変化は見られなかったが、善段のソーシャルワークではカバーできていない最貧困層の人々の生活実態を改めて認識できたことは、スタッフ自身にとっても大きな出来事であった。また、郡の開発担当官や住民との関係強化が進んだことで、住民が行政サービスを活用することの利益を徐々にではあるが実感できるようになってきた。同時に、年のワケラン接種集金への希望以上の参加(毎回数百名を数える)など、役人の側でも自らの業績に立っという実例を作ることができた。また、実験的に結成された村委員会が、自らの資金と労力で道路補修や貧困住民への支援活動を開始したことなどは、こちらの予想を超えたものであり、今後の地域全体の発展に良い影響を与えてくれるものと期待している。</p>
5-4 自立発展性	(2) ジェンダー・環境等への配慮で留意したことはあるか	<p>もともと保守的傾向の強い地域であるため、グループ活動への女性の参加度が低く、その点に際して活動を進めている。また最近では寡婦や思春期の女性など、これまで対象にできていなかった女性層を巻き込んだり、男性の保健ボランティアを育成するなど、ジェンダー・インシユへの取り組みを強化するための基盤を固めている。環境面では、近年の化学肥料や殺虫剤の増加にもなる悪影響などを善段の啓蒙活動の中で積極的に取り上げたり、インドへの派遣研修で有機・自然農法の技術を学ぶなどして、今後より注力していく予定。</p>
6 教訓	(1) プロジェクト終了後も、必要な組織、活動、効果が継続される可能性はあるか  (2) 上記を確保、促進するための配慮、工夫は行われたか。	<p>上述した既存の相互扶助グループの約3~4割が、今後も自らの力で活動を継続していく意志を表明しており、こうしたグループレベルでの持続可能性が確認されているほか、2005年度には現在3つある地域活動センターをまとめて一つのローカルNGOとして独立させる予定であり、地域活動センターレベルでの活動の持続も確定している。すなわち、本事業終了後は引き続き、シヤプラニールがこの新NGOと協働する形でグループ、あるいは個人に対するソーシャルワークを継続できる体制を構築しつつあるといえる。また各グループも将来にわたって自主的に活動する道を選ぶものも多く、そうした事例は直接の受益者だけでなく、広く地域全体に訴求するだけの力をもつ可能性がある。</p> <p>受益者負担をあらゆる面で徐々に高めてきているほか、最初から助言以外は何も提供しないという形で関わっているグループも増やしている。またフィールドスタッフや地域事務所責任者に対して独立後も一つの独立したNGOとして活動を継続できるような、意識の醸成と必要な研修を行っている。</p> <p>本事業開始まで、ほとんど接触する機会がなかった地方行政機関の仕組みや役割を理解することができ、真の意味での地域開発のあるべき姿を考察することができた。</p>
7 提言	(1) 案件形成・計画段階で得られた教訓はあるか  (2) 事業実施段階で得られた教訓はあるか	<p>地方行政との連携は、考えていた以上にさまざまな利権もからみ、難しいものであることを実感した。しかしながら、人的な交流から始め、徐々に信頼関係を築きつつあり、今後定期的な協議の場を確保していく中で具体的な成果が生まれてくるものと期待している。また現場のスタッフですらその状況を把握できていなかった最貧困の実態が明らかになったことは、計画段階での状況認識の不完全さを改めて認識するいい機会になったと同時に、そうした人々に対する地域福祉の視点からも地方行政との連携の重要性を再確認できた。</p> <p>作業に時間と経費のかかる会計報告のあり方などにつき、事業開始後、双方の合意のもと徐々に改善されてきており、現状で提言すべきことはない。</p>
8 JICAとの連携について	JICAや他の同種NGOへ提言すべきことはあるか  JICAと連携したことによるメリット、デメリット	<p>政府・行政機関と話し合いの場をもつことができるようになり、地域におけるシヤプラニールのプレゼンが喜まされた。また定期的にまとまった資金が得られるようになり、回転資金の枯渇を心配しながら活動内容の見直しをする必要がなくなった。デメリットは現状で認識していないが、将来的にJICAからの資金をめぐって何らかの要求をする住民ないし行政官が現れる可能性は否定できない。</p>

7. 評価グリッド

評価グリッド：バンングラ子シユ国貧困層のエンパワメントを通じた住民参加型農村開発計画

添付資料 7

評価項目	調査項目	必要な情報	情報源	調査方法	これまでの調査結果を踏まえた今後の調査内容
上位目標の達成度(見込み)	インヨルゴンジ郡対象ユニオンの貧困層の生活が向上する	a) 貧困層の生活実態(資産・貯金・家財・消費)が向上する。	評価シート	資料レビュー	シヤプラニールでは、本プロジェクトのベースラインデータ調査ではないものの、1999年に実施した生活実態調査の結果をベースラインとし、今後実施する予定の生活実態調査の結果をもつて本プロジェクトの上位目標のインパクトを測る見込み
		b) 最貧困層の比率が減少する。	評価シート	資料レビュー	
プロジェクト目標の達成状況	インヨルゴンジ郡対象ユニオンの貧困層のエンパワメントが実現する	c) 就学率が上昇する。	評価シート	資料レビュー	1) 貧困層のエンパワメントの定義、指標のうちa)成熟、自立的段階の定義づけを明確にし、評価関係者、プロジェクト関係者間の合意が必要 2) プロジェクト目標の達成を質的に測る情報として プロジェクト実施前とそれぞれの受益者(相互扶助グループ等)から各事業実施によって「自分の生活にたいする意識がどのように変わったのか(今よりもよい生活にするために自分で回ることができるのか、自分でのようなことをしようと考えているのか等)」について聞き取り調査で情報収集する
		d) 子どもの栄養状態が改善される。	評価シート	資料レビュー	
成果の達成状況	成果1 対象貧困層の能力が向上する	e) ユニオン選挙等で貧困層や女性が進出する。	評価シート	資料レビュー	成果1 活動の実績は調査済み。 今後は、対象貧困層の住民が各活動に参加したよってどのような能力が向上したのか、(これまでにできなかったことよってどのようなことができるようになったのか)を情報収集する。これは、現地でプロジェクト実施前、受益者(各活動の)に対しての聞き取り調査で行う
		a) 貧困層による相互扶助グループの20~40%が成熟し自立的段階に達する。	評価シート	資料レビュー 聞き取り調査	
成果の達成状況	成果2 基礎的公共サービスが提供される	b) 成人識字率を1300人が修了する。	評価シート	資料レビュー 聞き取り調査	成果2 活動の実績は調査済み。 今後は、基礎的サービス提供によって生活にどのような変化があったのかを情報収集する これは現地でプロジェクト実施前、(各活動の)受益者に対しての聞き取り調査で行う
		c) 6750人が保健衛生やジェンダー、社会意識等についての啓蒙活動を受ける。	評価シート	資料レビュー 聞き取り調査	
成果の達成状況	成果3 経済的向上機会が提供される	d) 6500人が清潔な飲み水や衛生的なトイレを使用。	評価シート	資料レビュー 聞き取り調査	成果3 活動の実績は調査済み。 今後は、経済的向上機会が提供されたことよって収入が向上したのか、またそれ以外にどんな経済的向上があるのかを情報収集する。これは、現地でプロジェクト実施前、(各活動の)受益者に対しての聞き取り調査で行う
		e) のべ5000世帯がマイクロクレジットおよび自己資金を活用して収入向上活動に取り組む。	評価シート	資料レビュー 聞き取り調査	

評価項目	調査項目	必要な情報	情報源	調査方法	これまでの調査結果	今後の調査内容
投入実績	日本側	日本人担当者 業務責任者1名、 調整員1名 タッカ事務所担当者1名	評価シート	資料レビュー	業務責任者1名(X10.5ヶ月:職員との連携により、2002年度から業務責任者(ブロンエクトマネージャー)が交替。 調整員1名(X13ヶ月:計画通り) タッカ事務所担当者1名(X18ヶ月:当初計画の担当者が2002年度より業務責任者となったため、もう1名の駐在員が担当者として充当。  タッカ事務所担当者3名(X36ヶ月:業務増加(渉外、会社報告)のため、2002年度以降は総務主任(会社担当)も業務担当者として追加。 地域事務所責任者3名 X 36ヶ月:計画通り フィールドワーカー-32名 X 36ヶ月 / 2名 X 28ヶ月:フィールドワーカー-26名、サービスタップ28名 ほぼ計画通り	施設、機械については活用状況について現地視察する。
		ハンガラデシユ人担当者 タッカ事務所担当者 地域事務所責任者 フィールドワーカー	評価シート	資料レビュー	モーターバイク10台、コンピュータ9セット、基本ソフト1本、デジタルカメラ1台、大容量スタビライザー1セット、コピー機1台、エアコン1台、携帯電話9台、ファイルキヤビヤット4台、机3脚、椅子10脚、デジタルビデオカメラ1台 簡素トイレ1103基(1490基プロジェクト終了までの見込)、手押しポンプ井戸99基(168基見込) 再調剤17基(59基見込み)	
		資機材: 簡易トイレ/手押しポンプ井戸/ モーターバイク/コンピュータ等	評価シート	資料レビュー	地域事務所業務研修所の建設を3カ所で実施した。 インヨルゴンジ1地域活動センターの建設と補修 インヨルゴンジ2地域活動センターの増築(衛生研修施設、トイレ)と補修 インヨルゴンジ3地域活動センターの建設と補修(現在実施中) シヤアラニール側からの資金提供による小学校改築と道路補修は行われなかった。	
		施設: 地域事務所業務研修所建設/ 小学校改築/道路補修等	評価シート	資料レビュー	インド:西ベンガル州コルカタとその周辺地域へ2回の派遣研修を実施 2003年3月:タッカ事務所スタッフ2名、フィールドスタッフ8名、計10名を派遣。 有機農業法の活用方法および地方行政とNGO・住民との連携事例を 見学 2003年12月:タッカ事務所スタッフ3名、フィールドスタッフ4名、UNO、ユニオン チエアママン4名、 グラム・インヨルカルチエアママン3名、計15名を派遣。 地方行政とNGO・住民との連携事例の精査および有機農業法を研 修(現在実施中)。 一回目の実施により派遣の効果が確認されたことにもない、人数を拡大し てシヤアラニールのスタッフだけでなく、地方行政および住民側からの参加を突 現	
ハンガラデシユ側	研修:15名/5名(近隣国へ)	受益者負担分: 識字学級参加費 井戸・トイレ自己負担分 積み立て貯金の活用 小学校改築や道路 補修時の労力	評価シート	資料レビュー	受益者負担の金額は徐々に上げる方向で調整 識字学級参加費:一人30TKを全員が負担。 手押しポンプ井戸:一基につき2,800TKを受益者が負担。(設置にかかる総 経費の約3割に相当) 簡易衛生トイレ:一基につき400TKを受益者が負担。(設置にかかる総経費 の約7割に相当) *インヨルゴンジ3の活動地域では、分割返済を前提にした完全な実費 負担を実現。 積み立て貯金の活用:各相互扶助グループでは自分たちで積み立てた貯金 に加え、シヤアラニールからの マイクロクレジットを あわせて大小さまざまな収入向上活動を実施 道路補修時の労力:日本側の投入としては道路補修を行わなかった。 住民が自らの発案と労力を提供する形で約500メートルの村道改修が 実現し、さらに他の事業を検討中。	施設、機械については活用状況について現地視察する。
	地域行政: 道路補修 郡閣委員の技術指導 アシスタントの技術指導	評価シート	資料レビュー	投入として道の道徳修築し 郡閣委員:住民のニーズに応じた各種の技術研修、養魚、野菜耕作、牛や家禽 の肥育研修実施の講師 出張サービス(牛のワクチン接種を目的とした集会へ) 出張サービス(牛の保健院等の公共保健機関への派遣 助産婦や保健ボランティア)		

調査項目	主たる調査項目	必要な情報	情報源	調査方法
活動進捗状況	モニタリングの実施状況	モニタリングの仕組み 計画の修正内容、 手法(戦略)の見直し	四半期報告書 東京事務所、ダッカ事務所、地域事務所、 アドハイザリー・コミソッティ、フィールドワーカー	資料レビュー アンケート、聞き取り調査
	資機材・資金の投入	供与のタイミング	四半期報告書 東京事務所、ダッカ事務所、地域事務所	資料レビュー アンケート、聞き取り調査
関係者の関わり方	プロジェクト実施に関する(日本側)JICA事務所、本部、(バ側)実行 委員会等の協力体制	コミュニケーションの状況 共同作業による問題解決方法の見直し状況	四半期報告書 東京事務所、ダッカ事務所、地域事務所 JICA事務所、JICA本部 アドハイザリー・コミソッティ	資料レビュー アンケート、聞き取り調査
	プロジェクト実施機関内、および受益者とのコミュニケーション	東京事務所、ダッカ事務所、地域事務所、フィールドワーカー、受益者(相互扶 助グループ、住民等)間のコミュニケーション	四半期報告書 東京事務所、ダッカ事務所、地域事務所、フィールド ワーカー 相互扶助グループ、住民	資料レビュー アンケート、聞き取り調査
	地方行政の巻き込み	コミュニケーションの状況 共同作業による問題解決方法の見直し状況	四半期報告書 ダッカ事務所、地域事務所、フィールドワーカー アドハイザリー・コミソッティ	資料レビュー アンケート、聞き取り調査
	OP、受益者の変化	地域事務所(プロジェクト要員)、フィールドワーカー、相互扶助グループ、住民 の変化	四半期報告書 ダッカ事務所、地域事務所、フィールドワーカー	資料レビュー アンケート、聞き取り調査
その他	外部条件の影響	Negativeな条件にどのように対応したか、その結果は? Positiveな条件をどのように活かしたか、その結果は?	四半期報告書 ダッカ事務所、地域事務所、 アドハイザリー・コミソッティ、 フィールドワーカー、受益者	資料レビュー アンケート、聞き取り調査

評価グリッド：ハンガラデシユ国貧困層のエンパワメントを通じた住民参加型農村開発計画

評価項目	調査項目	必要な情報・データ	情報源	調査方法	
妥当性 プロジェクト実施は妥当であったか？	上位目標は相手側の開発政策、対象地域における政府開発計画や方針と整合性が図られていたか？	ハンガラデシユ国の農村開発政策、貧困削減計画、地方行政の業務計画	事前調査報告書、計画書 JICA事務所、東京・ダッカ事務所	資料リビュー アンケート、インタビュー	
	プロジェクトの目標は対象地域、受益者のニーズに合致しているか。	ターゲットグループ選定の経緯	事前調査報告書、計画書 評価シート、JICA事務所 東京・ダッカ、地域事務所	資料リビュー アンケート、インタビュー	
	ターゲットグループ以外への波及効果は期待できるか？	ターゲットグループ選定の経緯	事前調査報告書、計画書 評価シート、JICA事務所 東京・ダッカ、地域事務所	資料リビュー アンケート、インタビュー	
	プロジェクト目標は日本の開発援助の方針と整合性があるか？	国別援助方針	外務省、JICAの資料、計画書	資料リビュー	
	NGOの事業理念との整合性はあるか？	NGO事業実施方針	シャブラニールの資料、計画書	資料リビュー	
	プロジェクト実施により、イシヨルゴンジ郡対象コミュニティの貧困層のエンパワメントが実現したか？	プロジェクト目標の達成度合い	実績表	資料リビュー	
	有効性(目標達成度) プロジェクト実施により、期待される効果が得られるか？	プロジェクト目標と成果の関連(成果による目標達成か？) 各成果の貢献度合い 相手国内における経験・基盤・ネットワークの有効活用の事例 当該分野での技術・経験が生かされているか？	実績表 四半期報告書 ダッカ、地域事務所 評価シート、ダッカ事務所、地域事務所	資料リビュー アンケート、インタビュー 資料リビュー アンケート、インタビュー	
	効率性 プロジェクトは効率的であったか？	投入の質・量・タイミングは適正であったか？	日本側の投入の適正度 ハンガラデシユ側投入の適正度 投入の活用度 投入のタイミング(遅れはなかったか？)	四半期報告書 ダッカ事務所、地域事務所 四半期報告書 ダッカ事務所、地域事務所 四半期報告書 ダッカ事務所、地域事務所 四半期報告書 ダッカ事務所、地域事務所	資料リビュー アンケート、インタビュー 資料リビュー アンケート、インタビュー 資料リビュー アンケート、インタビュー
		前提条件の確保状況	どのような課題があったか？	四半期報告書 ダッカ事務所、地域事務所	資料リビュー アンケート、インタビュー
		投入の総コストと他のドナーの類似プロジェクトの比較	他ドナーのプロジェクトと比較してコストの面で問題があったか？	四半期報告書 ダッカ事務所、地域事務所	資料リビュー アンケート、インタビュー
			ダッカ事務所	資料リビュー インタビュー	

評価グリッド：ハンガリー・ラッシュン・貧困層のエンパワメントを通じた住民参加型農村開発計画

評価項目	調査項目	必要な情報/データ	情報源	調査方法
インパクト プロジェクト実施により間接的・波及的効果はあるか？	上位目標(予期/期待したインパクト)の達成見込みはあるか。 (プロジェクト実施によりインヴォルゴル郡対象ユニオン層の生活の向上の見込みはあるか。)	貧困層の生活美観の向上 最貧困層の比率が減少する 就学率が上昇する こどもの栄養状態が改善される ユニオン選挙等で貧困層や女性が選出する	実績表 実績表 実績表 実績表 実績表	資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー
	受益者に対する予期しなかったプラス・マイナスの影響はあったか。 受益者以外に対する予期しなかったプラス・マイナスの影響はあったか。	該当の事例 該当の事例	四半期報告書 タツカ事務所、地域事務所、フィールドワーカー 四半期報告書 タツカ事務所、地域事務所、フィールドワーカー	資料レビュー アンケート、インタビュー 資料レビュー アンケート、インタビュー
自立発展性 協力終了後も効果が持続していくか？	プロジェクトの終了後の今後のビジョンは？	八国の農村開発政策 国家計画における対象地域の位置づけ シヤブアニーの活動計画	専門調査報告書、計画書、四半期報告書 評価シート JICA事務所、東京・タツカ事務所	資料レビュー アンケート、インタビュー
	実施機関の組織能力は効果を継続するのに十分であるか？ 技術の定着度(プロジェクト実施要員が活動を継続していくにあたって必要な技術レベルがあるか？) 普及の仕組み (住民の参加・学びを促す仕組みになっているか？)	人材配置の適正度、離脱者の状況 争奪の確保、財政支援の継続性 モニタリングのしきみ 指導されたプロジェクト要員の技術の定着度 施設、資機材の維持管理状況 技術普及のしきみ 計画段階、実施段階で十分に受益者が参画していたか 受益者のエンパワメントを回帰するような工夫がなされていたか	四半期報告書、評価シート LGD関係者、東京、タツカ事務所 アドハイザリー・コミュニティ 四半期報告書、評価シート 東京、タツカ事務所 四半期報告書、地域事務所、フィールドワーカー、相互扶助グループ 四半期報告書、地域事務所、フィールドワーカー、相互扶助グループ 四半期報告書、地域事務所、フィールドワーカー、相互扶助グループ	資料レビュー アンケート、インタビュー 資料レビュー アンケート、インタビュー 資料レビュー アンケート、インタビュー 資料レビュー アンケート、インタビュー 資料レビュー アンケート、インタビュー
	ジェンダー・環境等への配慮で留意したことはあるか 社会配慮(地域の特性に関すること)	留意した事例 プロジェクト対象地域での社会的特徴を有効に活用した取り組み方をしているか？	四半期報告書、地域事務所、フィールドワーカー、相互扶助グループ 四半期報告書、地域事務所、フィールドワーカー、相互扶助グループ	資料レビュー アンケート、インタビュー 資料レビュー アンケート、インタビュー

<NGO連携の評価>

評価グリッド：バン格拉デシユ国貧困層のエンパワメントを通じた住民参加型農村開発計画

添付資料 7

評価項目	調査項目	主たる調査項目	必要な情報・データ	情報源	調査方法
ODA財によってJICA-NGO連携は効果的であったか？	期待したNGOの優位性(専門性)が活かされたか？ (一有効性と関連一)	プロジェクト実施において活用した実施機関(NGO)の優位性、専門性	プロジェクト実施において活用した実施機関(NGO)の優位性	事前調査報告書、計画書 JICA事務所、本部担当者 東京、ダッカ、地方事務所	資料レビュー インタビュー アンケート
	NGOの体制・活動が強化されたか？	資金面の利点が活動の拡大に結びついたか？	資金面の利点が活動の拡大に結びついたか？	事前調査報告書、計画書 JICA事務所 東京、ダッカ、地方事務所	資料レビュー インタビュー、インタビュー
	JICA事業との連携状況はどのようなものであったか？	NGO/JICAの相互の情報・知見の交換による相乗効果はあったか？	関係性を示す事例、整合性が確保されている点、相乗効果のある連携の事例	事前調査報告書、計画書 JICA事務所 東京、ダッカ、地方事務所	資料レビュー インタビュー、インタビュー
	プロジェクトの柔軟な運営が可能であったか？	契約期間と運用の柔軟性	NGO事業での柔軟性が確保されている(いない)事例	事前調査報告書、計画書 JICA事務所 東京、ダッカ、地方事務所	資料レビュー インタビュー、インタビュー
	期待した連携のBenefitが活かされたか？	期待した連携のBenefitが活かされたか？	期待した連携のBenefitが活かされたか？	事前調査報告書、計画書 JICA事務所 東京、ダッカ、地方事務所	資料レビュー インタビュー、インタビュー
	連携によって派生した問題、課題はあったか？	連携によって派生した問題、課題はあったか？	連携によって派生した問題、課題はあったか？	事前調査報告書、計画書 JICA事務所 東京、ダッカ、地方事務所	資料レビュー インタビュー、インタビュー
	相手国にとってJICA-NGO連携は効果的であったか？	期待した連携の成果があったか？	期待した連携の成果があったか？	事前調査報告書、計画書 JICA事務所 東京、ダッカ、地方事務所	資料レビュー インタビュー、インタビュー
	国民参加を促進するものであったか？	国民参加を促進するものであったか？	国民参加を促進するものであったか？	事前調査報告書、計画書 JICA事務所 東京、ダッカ、地方事務所	資料レビュー インタビュー、インタビュー
	期待した連携のBenefitが活かされたか？	期待した連携のBenefitが活かされたか？	期待した連携のBenefitが活かされたか？	事前調査報告書、計画書 JICA事務所 東京、ダッカ、地方事務所	資料レビュー インタビュー、インタビュー
	期待した連携のBenefitが活かされたか？	期待した連携のBenefitが活かされたか？	期待した連携のBenefitが活かされたか？	事前調査報告書、計画書 JICA事務所 東京、ダッカ、地方事務所	資料レビュー インタビュー、インタビュー

受益者の変化のまとめ 「イシヨルゴンジ郡対象ユニオンの貧困層の生活が向上する」

<受益者の意識の変化>

活動	受益者のコメント	プロジェクトスタッフのコメント
<p>成果1 対象貧困層の能力が向上する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>成人識字学級を実施</li> <li>グループ研修を実施</li> <li>保健ボランティアを養成</li> <li>相互扶助グループを育成・指導</li> </ol>	<p>自分で名前を書けるようになった                      子供たちに勉強を教えることができたようになった                      今までわからなかったことを理解できるようになった(例:清潔にすること)                      署名ができるようになったり、捺印を押すことがなくなった(捺印が押すことは恥ずかしかった)                      シャブラニール新聞、子供の教科書を読めるようになった                      看板や葉の説明書きを読めるようになった                      (夫から葉の変化について) 妻が何でもできるようになった                      (靴職との手紙のやりとりが) 妻が何でもできるようになった                      本をよむことができるようになった                      商売の計算ができるようになった                      だまされたり、盗まれたりするようになった                      相互に助けあうようになった(困っている人への資金援助、病人への薬代援助等)                      一人一人が集まれる場所(小屋)ができた                      将来への希望や期待がもてるようになった</p>	<p>子供を(とくに女子)を学校に行かせるようになった                      ショミティメンバーの子供の就学率は10年前は70-75%だったが現在は99%まで伸びている。(親の意識の変化)                      早婚が減少してきた                      一人人が産前検診(ANC)を受けにクリニックに向くようになった                      女性シヨミティでは子供を同伴する機会が多いので集会に来る子供たちの栄養状態を観察できる                      子供が多いことから 家族計画を奨励するが、避妊薬を配布する際にも同伴してもらう                      「子供は親の行動をみて成長する」と指導している                      女性シヨミティにはジェンダーの問題がある。(イシヨルゴンジは保守的な地域なので、女性は親戚など以外の男性と接触してはいけないことになっている)</p>
<p>成果2 基礎的公共サービスが提供される</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 手押しポンプ井戸の配布</li> <li>2 簡易トイレの配布</li> <li>3 一助産婦の養成</li> <li>4 補習授業の実施</li> <li>5 一親およびユニオンの開発担当官との連携強化</li> </ol>	<p>きれいな水にアクセスできるようになった。パーツナルハイゼン(服を洗う、掃除をする、食器を洗う等)に配慮できるようになった                      サンダルを履くようになった                      下痢、赤痢、コレラ、チフスなどの病気が減った                      子供のためのハイゼンについて理解できるようになった                      研修を通して地域行政担当者とも面識ができるようになり、いままでより気軽に情報交換ができるようになった                      シャブラニールプロジェクトのシヨミティメンバーという立場を理解してもらったと地方行政担当者(村レベル)が好意的な対応になる。</p>	<p>Traditional Birth Attendant (TBA) 研修後に、TBAがよく働くようになった                      一部 県レベルの行政担当者(NGO)が相認に乗ってくれるようになった                      今では地方府側からNGO Coordination Meetingへの参加を奨励されている                      フィールドレベルで役人(畜産担当官、農業普及員)が協力的(研修指導)                      行政スタッフの村への訪問頻度が増えた                      行政スタッフの村への訪問頻度が向上した(信頼度向上)                      ユニオンレベルの議員の補欠選挙の投票管理を依頼された(信頼度向上)                      ユニオンレベルのプログラムへの協力依頼、助言やアイデア依頼                      (村レベル)                      シャブラニールに対する信頼が高まったため、ユニオンチェアマンや国会議員の補欠選挙の投票管理を任せられた                      ユニオンチェアマンから彼らの企画で実施するプログラムへの協力を依頼されるようになった                      行政サービス(牛ワクチンの採取、保健など)にアクセスできる機会が増えた                      謝礼を求められて困ることがあったが、謝礼はださないよう努力している                      プロジェクトの活動での研修参加者にたいしてひがんでいいるケースがある</p>
<p>成果3 経済的向上機会が提供される</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 マイクロクレジットの実施</li> <li>2 一収入向上技術研修を実施</li> <li>3 一小規模インフラの整備</li> </ol>	<p>女性グループリーダーが夫の反対で脱退した                      マイクロクレジットを活用して、土地の耕作権を獲得したい                      シヨミティに参加する前はローンは高利貸にしていた                      貯金ができるようになった                      計画を立てることがなくなったから夫婦間の意味のない喧嘩がなくなった                      一夫と妻双方の稼ぎを合わせて共同管理している                      子供には給与所得者になってもらいたいと希望している                      会計帳簿をつけることができるようになったので、プロジェクトが終わっても自分たちで貯金を集めて活動を継続することができた                      シヨミティでリキシヤを17台購入し、貸し出しをして利益を上げた結果、27台追加で購入した</p>	<p>FOのやりがい:                      メンバーの改善を目の当たりにしたとき、メンバーが夢を実現しつつあるのを見て、村の女性に希望を与えていると感じるときにFOとしての仕事のやりがいを感じる                      受益者の周りに、サービスを受けることができず、貧困層の存在がわかった。                      一利権の発生による将来の不安一行政担当者からの手当ての要求などがでてきている</p>
<p>&lt;受益者以外の変化&gt;</p>		
<p>プラスのインパクト</p>	<p>一 村レベルのリーダーたちが協力的になってきた。                      一 男性のフィールドオフィサー(FO)を女性のシヨミティでも受け入れることができるようになった(これはバンダラテラシユ農村社会の根深い慣習をうちやぶったことを意味する)</p>	<p>一 謝礼を求められて困ることがあったが、謝礼はださないよう努力している                      一 プロジェクトの活動での研修参加者にたいしてひがんでいいるケースがある</p>
<p>マイナスのインパクト</p>		<p>一 利権の発生による将来の不安一行政担当者からの手当ての要求などがでてきている</p>

新連載

# 思いを語り始めた村人たち

識字学級卒業生の作文から

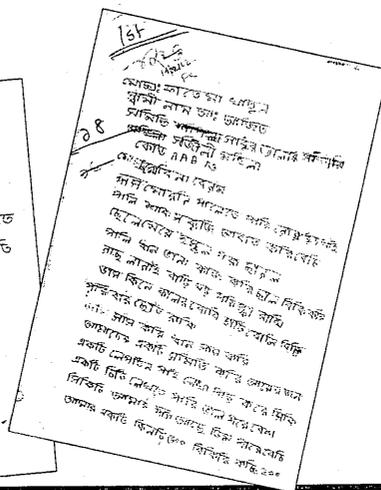
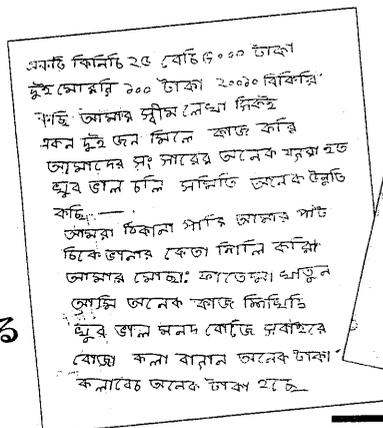
作文コンテストのテーマ：

## 「経済的な発展における女性の役割について」

私は牛とアヒルの飼い方を知っています。牛乳を飲んでます。野菜の耕作をし、市場に売っています。子どもを学校に送っています。山羊も飼っています。精米もしますし、それを売ったりもします。竹を買ってマット（ござ）を作り、市場で売ります。家族計画をしています。土地を耕し、稲作をします。私たちにはシヨミティがあります。私はそのシヨミティのメンバーです。シヨミティを通してトイレを手に入れました。そして識字学級で読み書きも勉強できました。いま、私は手紙を書くことができます。アヒルが産む卵を売ることができます。2羽の雌鳥を100タカで買い、210タカで売ることができました。110タカの利益です。夫も識字学級で勉強したことがあり、彼も読み書きができます。いまは夫婦で一緒に働いています。前はよくケンカをしたものですが、いまはしません。家庭はとても良い状態にあります。シヨミティの発展のためにたくさんのお金をしてきました。私はまた、刺しゅうをすることができます。例えばノクシカタなど、家庭で使う手工芸品を作ることができます。シヨミティでたくさんのお金を勉強しました。いまでは何がよくて何が悪いのかが分かるようになったので、それを他の人たちにもアドバイスするようにしています。自分の庭にたくさんバナナの木を植えてその収穫があります。一部を売って、利益も得ています。

このコーナーでは、われわれが活動しているバングラデシュの村人が書いた作文を皆さんに紹介します。シャプラニールが成人識字学級の卒業生のために行っている「識字学級卒業生エッセイコンクール」と「シャプラ・シヨムパッド(新聞)」で村人が書いた作文からバングラデシュの村の様子、シヨミティ活動について感じてもらいたと思います。この「識字学級卒業生エッセイコンクール」と「シャプラ・シヨムパッド」は共に国際識字年であった1990年頃始まりました。プログラムが始まって10年あまりが経過し、徐々に村人が自分たちの胸の内をペンに託し書き記して来ました。そのあたりを楽しみに本連載を読み進めていってください。

まず、一回目の今回は今年度識字学級を卒業しエッセイコンクールに入賞したファテマ・ベグムさんの作文です。



### ■ 2002年度イシヨルゴンジ2地域活動センターの作文コンテスト入賞作品

名前：ムサンマド・ファテマ・ベグム  
 夫の名前：アブドウル・アジズ  
 シヨミティの名前：シャドウールゴラ・シヨジョニ・女性シヨミティ



作文コンテストの表彰式、写っている牛は入賞の商品です。左から2番目がファテマさん。

**ファテマ・ベグムさん**  
 25歳。夫と子ども3人（息子2人、娘1人）の5人家族。夫はリキシャを引いて日銭を稼ぐかわら、ちょっとした行商もしています。一日3回の食事にも事欠く毎日、少しでも生活をよくしたいと考えて近所の友人と一緒にシヨミティのメンバーになりました。98年の12月のことです。それ以来、保健衛生の基礎知識を勉強してトイレを購入したり、家庭菜園の作り方を習ったりするなど、積極的に活動に参加してきました。去年はついに念願の識字学級を受けることができ、生活の全般にわたって自信がつかってきました。長男はいま、小学校に毎日通っていますが、下の子ども2人もきちんと学校にやりたいというのが当面の夢です。

第2回

# 思いを語り始めた村人たち

識字学級卒業生の作文から

**私**の名前はソネカ、お父さんの名前は  
チョイトンノです。私の家はとても貧  
しいです。家族は兄2人と兄嫁2人、父さん  
と母さん、私です。私はバグディというカース  
トです。バグディの家の子どもたちは教育を

受けておらず読み書きができません。私の家族も誰も勉強をしたこ  
とがありません。私たちの住む集落に少女グループをつくりました。  
私はこの少女グループのメンバーです。グループの名前はスリドル  
ゴンジ村コルミロタ少女グループです。このグループではバグディ  
もイスラム教徒もいっしょです。

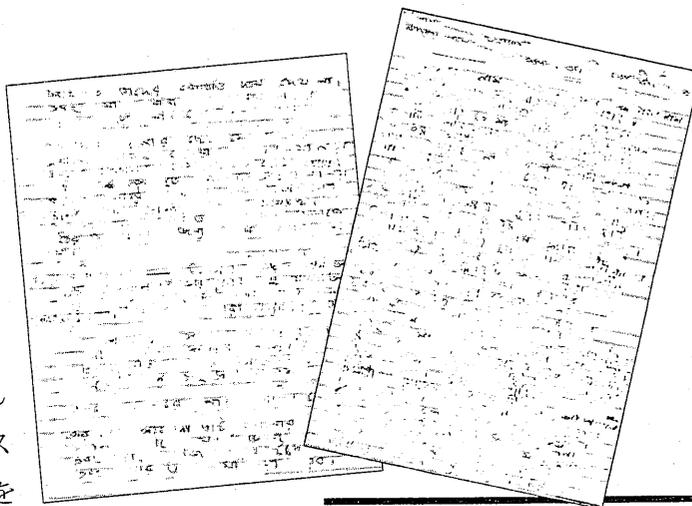
バグディの子どもたちは昔から畑仕事をしています。私も小さい時  
から畑の仕事をしてきました。そのため勉強をしたことがありません。  
お父さんもお母さんも私に勉強をさせてくれませんでした。私は読み  
書きを知らないで大きくなりました。今は勉強の大切さがわかります。

少女グループとシャプラニールのスタッフの助けで勉強する機会  
を得ました。グループのメンバーのモルジナ・ベグムさんから読み  
書きを教わりました。バグディは誰からも顧みられず、誰も私たちの  
価値を認めません。両親がものを知らないの、子どもたちが幼い  
時に結婚させてしまいます。私は勉強したので、今では短い本を読  
むことができます。小学校3年生に編入しました。でも、畑仕事の  
ために休むことが時々あります。

将来：私はもっと勉強を続けます。そうしなければバグディの私  
が結婚したときに、夫の両親から大切にされないし、家族の面倒を  
きちんと見る事ができません。夫の世話もきちんとできません。  
グループで貯金をします。他の人のためになるようなグループの活  
動をします。それからもっと勉強します。

このコーナーでは、われわれが活動しているバングラデシュの農村の村人が書いた作  
文を皆さんに紹介します。特に成人識字学級の卒業生のためにシャプラニールが行っ  
ている「識字学級卒業生エッセイコンクール」と「シャプラ・ジョンパッド(新聞)」に村人  
が書いた作文からバングラデシュの村の様子、ショミティ活動について感じてもらいた  
いと思います。

この「識字学級卒業生エッセイコンクール」と「シャプラ・ジョンパッド」は共に国際識  
字年であった1990年頃に始まったシャプラニールのプログラムです。プログラムが  
始まって10年あまりが経過し、徐々に村人が自分たちの胸の内をペンに託し書き記し  
はじめて来ました。そのあたりを楽しみに本連載を読み進めていってください。



名前：ソネカ

父親の名前：チョイトンノ

クラブの名前：スリドルゴンジ村コルミロタ少女グループ

年齢：13歳、小学校3年生



識字の教科書を読みながら勉強の成果  
をみせてくれたソネカさん。  
2003年2月。

### ソネカさん

陽気で笑顔の絶えないソネカさんは、バグディというヒン  
ドゥの低いカーストの一つに属しています。お父さんは日  
雇いで畑仕事をしたり魚を取ったりして生計を得ていま  
すが、生活はかなり苦しそうです。そのうえ兄夫婦2組が同じ  
家に住んでいるため、ソネカは同じ集落にあるおじさんの家  
で寝泊りしています。ソネカの入っているコルミロタ少女グ  
ループは2002年5月に結成され、7月から個人識字プログ  
ラムが始まりました。通常4カ月で終えるよう設定されてい  
るコースですが、畑仕事や家事をするかわら9カ月かけて  
頑張って終了し、今では公立のスリドルゴンジ小学校に編入  
しています。

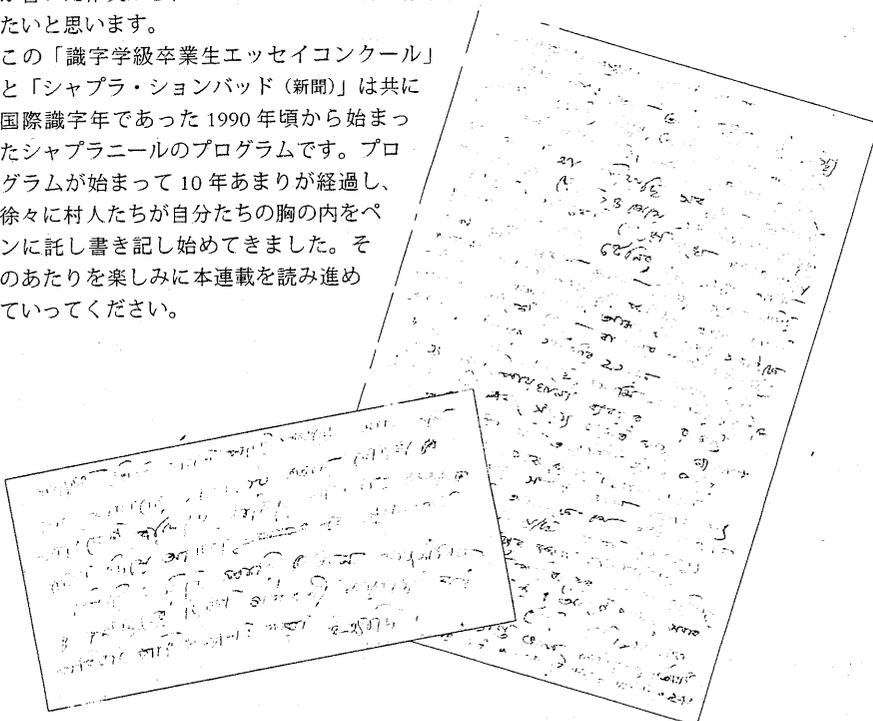
第3回

# 思いを語り始めた村人たち

シヨミティメンバーの作文から

このコーナーでは、われわれが活動しているバングラデシュの農村の村人が書いた作文を皆さんに紹介します。特に成人識字学級の卒業生のためにシャプラニールが行っている「識字学級卒業生エッセイコンクール」と「シャプラ・シヨンパッド(新聞)」に村人が書いた作文から、バングラデシュの村の様子、シヨミティ活動について感じてもらいたいと思います。

この「識字学級卒業生エッセイコンクール」と「シャプラ・シヨンパッド(新聞)」は共に国際識字年であった1990年頃から始まったシャプラニールのプログラムです。プログラムが始まって10年あまりが経過し、徐々に村人たちが自分たちの胸の内をペンに託し書き記し始めてきました。そのあたりを楽しみに本連載を読み進めていってください。



名前：アブドゥル・ロヒム

シヨミティ名：ボラハタ村バフボル男性シヨミティ

家族：妻と2人の娘(12歳と7歳)

息子(9歳)の5人家族



保健ボランティアをするロヒムさん(右端)

## ロヒムさん

ロヒムさんは38歳。近くの仲間と3年前に結成したシヨミティでは書記をしています。移動薬局を営むかわら、シヨミティ活動にも積極的に参加しています。10年生まで勉強し読み書きが堪能なロヒムさんは成人識字学級では先生役も務めました。保健衛生ボランティアの役目も精力的にこなし、成果は確実にあらわれています。現在シヨミティメンバーの8人がトイレを使い井戸も一つあります。しかし、何よりも雄弁に変化を物語るのは彼の妻の言葉でしょう。「夫は変わりました。ビタミンが豊富だからと野菜を植えたり、市場から野菜を買ってきたりするようになりました」

(ダッカ事務所 藤崎文子)

シャプラニールのイシヨルゴンジ地域活動センターで保健ボランティアの研修を受けて、私の気持ちにとっても大きな変化がありました。研修を受ける前に私がしていたことはすべて間違っていたと気づいたからです。何も知らないがゆえに家族が不潔な状況にいて色々な病気にかかっていたと思います。これからは幸せで安心して暮らせるように、まず家族が清潔でいられるようにします。不潔な環境を村からなくすよう努力します。シヨミティメンバー22名のうち6名がトイレを作りました。私はメンバーに対してトイレを使うことの大切さを伝え、そうしなければどんな事が起きるかを皆で話し合いました。

シャプラニールから一枚のフォームをもらいました。この地域の情報を書き留めるために、作業をしています。そのフォームへ既にシヨミティメンバー8家族のことを記入しました。この目的は私の近くに住む世帯に対して保健衛生に対する理解を深めることにあります。この仕事はほんとうに面白いと思います。私のように考える人間がシヨミティのなかにあと2人くらい出てきたら、この辺りの不潔な環境がなくなるでしょう。これ以外にも保健衛生知識、例えばヒ素、妊婦や子どもに対する予防接種、家族計画などについて皆の理解が高まるようになるでしょう。

ハンガラチシユ国貧困層のエンパワメントを通じた住民参加型農村開発計画プロジェクト終了時評価調査 (Shaplaneer用)

氏名:  
任務:

1/5& 2/5

調査項目	大質問	小質問	理由・コメント				
			1	2	3	4	
0. プロジェクト実施のプロセス	0.1 プロジェクト実施の課題	0.1.1 これまでのプロジェクト期間を通して、あなたにとって一番困難であったことは何ですか？	ない				
		0.1.2 そのことに対してどのように対処しましたか？					
		0.2.1 プロジェクトの進捗を計画通り(週間、月次報告、四半期)モニタリングしていましたが、(シヤブナニール・ハンガラチシユによるモニタリングのこと)	全く計画通りにモニタリングしていませんでした	あまり計画通りではなかった	ほぼ計画通りモニタリングしていませんでした	計画通りモニタリングしていませんでした	
		0.2.2 モニタリングの際にPDMは活用(参照)してましたか？	PDMを参照していませんでした	あまりPDMを参照していませんでした	ほぼPDMを参照していませんでした	PDMを参照していませんでした	
		0.2.3 モニタリングのシステムは効果的だったと思いますか？(進捗状況の確認ができ、その結果が計画の修正に反映されるようになっていましたか？)	効果的ではなかった	あまり効果的ではなかった	ほぼ効果的	大変効果的	
		0.2.4 現在のモニタリングシステムで、もっとも効果的だったと思われる点は何か？					
		0.2.5 モニタリングのシステムで今後改善すべき点があるとしたら、どのようなことですか？					
		0.2.6 また、どのようにしたらもっとも効果的になるのか、具体的な案がありましたらご説明下さい					
		0.3.1 計画の修正はどのような手順でなされましたか？(提案者→プロジェクト内の会議→決裁 →JICA報告 等)					
		0.3.2 計画の修正をする際にもっとも困難なことはどのようなことでしたか？					
活動進捗状況	0.3 計画の修正	0.3.3 これまでに発生した下記のような「計画の修正」の経験は今後のプロジェクト実施にどのように生かしていく予定ですか？(例: ニーズ調査のアプローチを修正する)	プロジェクト内での検討	プロジェクト内での決定	JICA事務所への説明	事務的な手続き	その他具体的に:
		1. 小学校の改築は行わなかった					
		2. 道路の補修は行わなかった					
0.4 戦略の見直し	0.4.1 プロジェクト実施の際に取り入れた次のアプローチは途中修正しましたか？	3. その他					
		0.4.2 修正をしたアプローチは、どのような問題がありましたか？	ターゲットアプローチ	参加型手法	リンクージュアプローチ	その他	具体的に:
		0.4.3 見直しの際にもっとも検討がなされましたか？					
		0.4.4 アプローチの修正によってどのような効果がありましたか？					
		0.5.1 JICA事務所の協力体制は効果的(適切)であったと思いますか？その根拠は？	効果的ではなかった	あまり効果的ではなかった	ほぼ効果的	大変効果的	
0.5 協力体制	0.5.2 JICA事務所からの協力について、大変よかったと思われるのはどのようなことですか？	0.5.3 JICA事務所からの協力について、今後改善すべき点があるとしたら、どのようなことですか？					
		0.5.4 JICA本部の協力体制は効果的(適切)であったと思いますか？その理由は？	効果的ではなかった	あまり効果的ではなかった	ほぼ効果的	大変効果的	
		0.5.5 JICA本部からの協力について、大変よかったと思われるのはどのようなことですか？					
		0.5.6 JICA本部からの協力について、今後改善すべき点があるとしたら、どのようなことですか？					
		0.5.7 実行委員会(Advisory Committee)は十分な機能を果たしたと思いますか？	十分ではない	あまり十分とはいえない	ほぼ機能を果たした	十分に機能を果たした	
		0.5.8 実行委員会の効果的な機能の事例を挙げて下さい。					
		0.5.9 実行委員会の体制について、今後改善すべき点があるとしたら、どのようなことですか？					

調査項目	大質問	小質問				理由・コメント			
		1	2	3	4	1	2	3	4
関係者の関わり方	0.6 プロジェクト内のコミュニケーション	0.6.1 プロジェクト実施者(Shaplener) 東京事務所、ダツカ事務所、地域事務所間において、コミュニケーションにおいて今後もっとも改善すべき関係はどの関係ですか？	東京事務所とダツカ事務所	ダツカ事務所と地域事務所	地域事務所間	その他の関係	具体的に:		
		0.6.2 具体的に改善すべき点ほどのようなことですか？	頻度	手段	担当者	その他	具体的に:		
		0.6.3 コミュニケーションをより効果的にするために、必要と考えられることは何ですか？	頻度を増やす	E-mailを可能にする	語学(英語またはベンガル語)を強化	その他	具体的に:		
		0.6.4 プロジェクト実施者間のコミュニケーション全般について今後改善すべき点があるとしたら、どのようなことですか？							
	0.7 地方政府の巻き込み	0.7.1 プロジェクト実施において、地方政府関係者の理解(参加)をえるためにどのような工夫をしましたか？	効果的ではなかった	あまり効果的ではなかった	ほぼ効果的だったといえる	大変効果的			
			0.7.2 それは効果的であったと思いますか？						
			0.7.3 今後改善すべき点があるとしたら、どのようなことですか？						
			0.7.4 地方政府に対し、今後どのような支援、協力を期待しますか？	財政	制度	人材	その他	具体的に:	
	0.8 CP、受益者の変化	0.8.1 プロジェクト実施によって、現地プロジェクト要員が積極的、主体的になってきたことですが、主たる要因は何だと思いますか？	収入	研修の機会	他者からの認知	その他	具体的に:		
			0.8.2 関係するエビソードがあったら教えてください。						
0.8.3 プロジェクト実施によって、相互扶助グループが活動に対して積極的になってきたことですが、主たる要因は何だと思いますか？			収入	研修の機会	他者からの認知	その他	具体的に:		
0.8.4 関係するエビソードがあったら教えてください。									
その他	0.9 外観条件の影響	0.9.1 地域内での暴徒による強盗事件がありましたか、このような状況に対しどのようなように対処しましたか？							
		0.9.2 対処の結果、どのような効果がありましたか？							
		0.9.3 その他、外観条件の影響に対して対処した事例があったら記載してください。							
		0.9.4 対処した結果、どのような効果がありましたか？							

バンングラデッシュ国貧困層のエンパワメントを通じた住民参加型農村開発計画プロジェクト終了時評価調査 (Shaplaneer用)

氏名:  
任務:

1. 妥当性 (RELEVANCE) - 添付のプロジェクトデザインマトリックス(PDM)をご参照の上、ご回答下さい。

大質問	小質問	1	2	3	4	理由・コメント
1.1. NGOの事業理念との整合性を損なう事例	1.1.1. これまでのプロジェクト実施期間中に、Shaplaneerの事業理念との妥当性が損なわれる危険性がありましたか？それほどのようなことですか？	まったくない	事例:			

2. 有効性 (EFFECTIVENESS) - 添付のプロジェクトデザインマトリックス(PDM)をご参照の上、ご回答下さい。

大質問	小質問	1	2	3	4	理由・コメント
2.1 プロジェクト実施により、イシヨルゴンジ型対象ユニオン等の貧困層のエンパワメントが実現したか？	2.1.1 プロジェクト実施による各指標の結果は期待通りだったと思いますか？	期待どおりの場合はなかった(予想より向上の度合いが少なかった)	あまり期待どおりではなかった	ほぼ期待通り	全く期待通り	
	2.1.2 上記 2.1.1で期待どおりではなかったと回答した方、予想と乖離した理由は何だと思えますか？	予想が高すぎた	成果1の達成度の影響	成果2の達成度の影響	成果3の達成度の影響	
	2.1.3 プロジェクトで実施した活動以外の要因でプロジェクト目標達成に、貢献したと思われることがあったら挙げて下さい					
	2.2.1 成果1<対象貧困層の能力が向上する>はプロジェクト目標(プロジェクト)達成にどの程度貢献したと思えますか？	貢献していない	あまり貢献していない	多少貢献	大変貢献	
	2.2.2 成果1のためになされた活動以外に、<対象貧困層の能力の向上>を図るために必要と思われる活動がありますか？					
	2.2.3 成果2<基礎的公共サービスが提供される>はプロジェクト目標達成にどの程度貢献したと思えますか？	貢献していない	あまり貢献していない	多少貢献	大変貢献	
	2.2.4 成果2のためになされた活動以外に、<基礎的公共サービスの提供>として必要と思われる活動がありますか？					
	2.2.5 成果3<経済的向上機会が提供される>はプロジェクト目標達成にどの程度貢献したと思えますか？	貢献していない	あまり貢献していない	多少貢献	大変貢献	
	2.2.6 成果3のためになされた活動以外に、<経済的向上機会の提供>のために必要と思われる活動がありますか？					
	2.3 NGOの経験・知見・ノウハウが活かされているか？	2.3.1 プロジェクト実施にあたって、シャプランニールの村産開発、貧困削減分野での技術・経験が十分活かされたと思えますか？	十分活かされてはいない	あまり十分活かされたとはいえない	ほぼ十分に活かされた	大変よく活かされた
	2.3.1 プロジェクト実施にあたって、シャプランニールの八国における経験・基盤・ネットワークが有効に活用されたと思えますか？	有効に活用されていない	あまり有効に活用されたとはいえない	ほぼ有効に活用された	大変有効に活用された	

バングラデシュ国貧困層のエンパワメントを通じた住民参加型農村開発計画プロジェクト終了時評価調査 (Shaplaneer用)

氏名:

分野:

3. 効率性 (EFFICIENCY)

調査項目	大質問	小質問	1	2	3	4	理由・コメント
3.1 日本側の投入	3.1.1 日本人プロジェクト担当者	a. 派遣人数は適切でしたか？ (業務責任者、調整員、事務所担当者各1名)	適切ではない	あまり適切ではない	ほぼ 適切	大変 適切	
		b. プロジェクト期間中の業務責任者の変更はプロジェクトの効率性にどのような影響を与えましたか？	適切ではない	あまり適切ではない	ほぼ 適切	大変 適切	
	3.1.2 バングラデシュ人担当者	a. 業務の増加によりタッカ事務所担当者を増員しましたが、効率性の観点から増員は適切だったとおもいますか？	適切ではない	あまり適切ではない	ほぼ 適切	大変 適切	
		b. スタッフの定着度は良好ですか？	良好ではない	あまり良好ではない	ほぼ 良好	大変 良好	
	3.1.3 資機材供与	a. 供与の量は適切でしたか？	適切ではない	あまり適切ではない	ほぼ 適切	大変 適切	
		b. 資機材の質は適切でしたか？	適切ではない	あまり適切ではない	ほぼ 適切	大変 適切	
		c. 供与のタイミングは適切でしたか？	適切ではない	あまり適切ではない	ほぼ 適切	大変 適切	
	3.1.4 ローカルコスト	a. 支出の金額は適切でしたか？	適切ではない	あまり適切ではない	ほぼ 適切	大変 適切	
		b. 支出のタイミングは適切でしたか？	適切ではない	あまり適切ではない	ほぼ 適切	大変 適切	
	3.1.5 プロジェクト実施のための要員の配置	a. 地域事務所スタッフの人数は適切でしたか？	適切ではない	あまり適切ではない	ほぼ 適切	大変 適切	
b. 地域事務所スタッフの受給能力は適切でしたか？		適切ではない	あまり適切ではない	ほぼ 適切	大変 適切		
3.1.6 施設・設備・機材の配備	a. プロジェクト事務所の施設環境は良好ですか？	良好ではない	あまり良好ではない	ほぼ 良好	大変 良好		
	b. 機材、施設設備は良好ですか？	良好ではない	あまり良好ではない	ほぼ 良好	大変 良好		
3.2 バングラデシュ側の投入	3.2.1 受益者負担	a. 受益者負担として効果的でなかった経費はありますか？	機字学級参加費	井戸	トイレ	道路補修費	その他:
		b. 効果的でなかった理由は何か？					
3.3 投入の効果的活用	3.2.2 地域行政負担	a. 地方行政から負担を得るために何か工夫をされましたか？	具体的に:				
		b. 工夫の結果はどうでしたか？	具体的に:				
		a. 人材は効果的に活用されましたか？	効果的ではない	あまり効果的ではない	ほぼ 効果的	大変 効果的	
3.4 前提条件	3.3.1 人材	b. 施設・機材・資材は効果的に活用されましたか？	効果的ではない	あまり効果的ではない	ほぼ 効果的	大変 効果的	
		c. 運営費(資金)は効果的に活用されましたか？	効果的ではない	あまり効果的ではない	ほぼ 効果的	大変 効果的	
		a. 地域事務所確保が困難なとき、どのような対応をしましたか？					
3.5 相対比較	3.3.2 運営費(資金)	b. 人材の確保にどのような工夫をされましたか？					
		a. 他のドナーが実施し、本プロジェクトと類似とおもわれるプロジェクトはありますか？	ない	ある			
3.5 相対比較	3.4.2 理地ファームドワーカーや上級スタッフとして適切な人材を確保する>	b. 該当の類似プロジェクトと比較して、本プロジェクトはコストがかなりすきいていると思いませんか？	コストがかなりすきいていると思う	あまりコストがかかりすぎているとは思わない	コストがかかりすぎていると思わない	コストがかかりすぎていると思わない	
		c. それはどのような面ですか？(かかりすぎていると思われる理由)					

バン格拉デシュ国貧困層のエンパワメントを通じた住民参加型農村開発計画プロジェクト終了時評価調査 (Shaplaneer用)

氏名:  
任務:

大質問	小質問	理由・コメント
4. インパクト (IMPACT)	4.1 受益者に対するインパクト	4.1.1 プロジェクト実施による想定されなかったプラスのインパクト(波及効果)としてどのようなことが挙げられますか? 4.1.2 プロジェクト実施による想定されなかったマイナスのインパクト(波及効果)としてどのようなことが挙げられますか?
	4.2 受益者以外に対するインパクト	4.2.1 プロジェクト実施による想定されなかったプラスのインパクト(波及効果)としてどのようなことが挙げられますか? 4.2.2 プロジェクト実施による想定されなかったマイナスのインパクト(波及効果)としてどのようなことが挙げられますか?

5. 自立発展性 (SUSTAINABILITY) - プロジェクトが終了したあとの見込み		理由・コメント			
大質問	小質問	1	2	3	4
5.1 プロジェクト終了後のビジョンは?	5.1.1 プロジェクト終了後に計画がすすまれているようですが、それはシャブラニールの今後の活動計画の方向性と合致していますか?	そうは思わない	あまりそうは思わない	ほぼそう思う	大変そう思う
	5.1.2 上記計画を推進していくための、政策レベルの十分な支援が得られると思われませんか?	そうは思わない	あまりそうは思わない	ほぼそう思う	大変そう思う
5.2 シャブラニール、バングラデシュの組織能力	5.2.1 シャブラニール(ダッカ事務所)人材の定着は今後は継続的に確保できると思いますか?	そうは思わない	あまりそうは思わない	ほぼそう思う	大変そう思う
	5.2.2 シャブラニール(ダッカ事務所)は財政面で支援を継続的に確保できると思えますか?	そうは思わない	あまりそうは思わない	ほぼそう思う	大変そう思う
5.3 技術的自立発展性	5.3.1 シャブラニールバングラデシュに移転した技術は定着していると思えますか? (定着するシステムができていますか?)	そうは思わない	あまりそうは思わない	ほぼそう思う	大変そう思う
	5.3.2 供与された機材、回収された施設は適切に維持管理される体制はできていると思えますか?	そうは思わない	あまりそうは思わない	ほぼそう思う	大変そう思う
	5.3.3 プロジェクト要員は機材の保守管理を独自に行っていくことができると思えますか?	そうは思わない	あまりそうは思わない	ほぼそう思う	大変そう思う

6. JICA-NGO連携の評価		理由・コメント			
大質問	小質問	1	2	3	4
6.1 プロジェクトの柔軟な運営が可能であったか?	6.1.1 NGO事業の運営の特徴である柔軟性が確保されなかった事例がありましたら記載してください。				
	6.1.2 NGO側の資金の工面が必要とされた事例がありましたら記載してください。				
	6.1.3 NGO事業では必要とされないが、本プロジェクトでは必要とされている作業の事例がありましたら記載してください。				
6.2 NGOが期待した連携のBenefitが活かされたか	6.2.1 資金面の利点が活動の拡大に結びついたと思えますか?	そうは思わない	あまりそうは思わない	ほぼそう思う	大変そう思う
	6.2.2 JICAによる支援によって八国政府、地方政府の協力を得やすくなったと思えますか?	そうは思わない	あまりそうは思わない	ほぼそう思う	大変そう思う
	6.2.3 技術面でのJICAの支援が事業実施の効率性に結びついたと思えますか?	そうは思わない	あまりそうは思わない	ほぼそう思う	大変そう思う
	6.2.4 JICAの支援によって広報効果が拡大したと思えますか?	そうは思わない	あまりそうは思わない	ほぼそう思う	大変そう思う
6.3 連携によって派生した業務実施手続き上の問題、課題はないか?	6.3.1 NGO事業とはことなる清算業務の事例がありましたら記載してください?				
	6.3.2 今後のバングラデシュにおける事業実施に関連した業務手続き上の課題はありますか?				

最後に、この質問票に対するコメント、また本評価調査全般に関するコメントなどありましたら自由に記載してください。

ご多忙のところ、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

**EVALUATION QUESTIONNAIRE for Project Implementers (Shaplaneer)**  
 Project Title : Participatory Rural Development Project through Empowerment of the Poor and Linkage with Local Public Resources in Bangladesh  
 Your Name: \_\_\_\_\_  
 Your Position: \_\_\_\_\_

**3. IMPLEMENTATION PROCESS**  
 (Please select the appropriate level on the following scale that best expresses your opinion and provide reasons / comments, if any.)

EVALUATION POINTS	QUESTIONS	SUB-QUESTIONS				REASON(S)/COMMENTS
		1	2	3	4	
0.1 Difficulties in the Process	0.1.1 What is the most difficult thing that you have experienced throughout the Project period?	Not at all	Rarely as planned	more or less as planned	Consistently as planned	
	0.1.2 How did you cope with that?					
0.2 Monitoring of project Implementation	0.2.1 Has the monitoring been conducted as planned? (by weekly report, monthly report, etc.)	a / b	c	d	e	
	0.2.2. When the Project was formulated, the PDM (Project Design Matrix) was created as a tool to monitor the implementation process. Did you refer to the PDM when you monitored the progress? (a) I did not refer to PDM at all because I did not know about PDM, (b) I did not refer to PDM at all although I knew about PDM, (c) I rarely referred to PDM, (d) I more or less referred to PDM, (e) I always referred to PDM.					
	0.2.3. Do you think that the monitoring system has been appropriate? (In other words, what was discovered thru the monitoring process has been incorporated into the project activities.)	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
	0.2.4 Which do you think have worked most effectively in the current monitoring system?	weekly report	monthly report	Steering Committee	Others	
	0.2.5 In terms of monitoring system, is there any area for further improvement? If yes, please explain	No.	Yes. (explain)			
	0.2.6 When the planned activities needed to be revised / changed, what was the process for revision? ( ex. request for revision --> project meeting --> approval by the PD - -> approval by JICA etc. )					
0.3 Revision of the Project Plan	0.3.1 What is the most difficult things in the process of revising the project plan?	Decision in the Project	Decision in the Advisory Committee	Approval by JICA	Related paper work	others: explain
	0.3.2 Do you think that you have received a good support from the JICA Bangladesh Office?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
0.5 Supporting system	0.5.1 What is the most helpful (appreciative) support you have received from JICA Bangladesh Office?					
	0.5.2 Do you have any suggestions / requests for JICA Bangladesh Office in order to facilitate the process of Project implementation?					
	0.5.3 Do you think that the Advisory Committee have functioned effectively to contribute to the Project?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
	0.5.4 What is the most helpful (appreciative) support (contribution) you have received from them?					
	0.5.5 Do you have any suggestions / requests for these functions (Advisory Committee) in order to facilitate the process of Project implementation?					
	0.5.6 Do you think that the Advisory Committee have functioned effectively to contribute to the Project?					

EVALUATION POINTS	QUESTIONS	SUB-QUESTIONS				REASONS/COMMENTS
		1	2	3	4	
Relationships among stakeholders	0.6 Communication among Project members	0.6.1 If you want to further improve the communication among Project, which relationship should be most focused?	Between Dhaka Office and Tokyo Office Increase frequency	Between Dhaka Office and 3 field offices	Among 3 field offices	Other: Specify
		0.6.2 What is the effective measures to do it?	Increase the frequency of meeting?	Communication device	the personnel skill	Others: Specify
		0.6.3 What is the possible approach to do it?	Increase the frequency (of meeting?)	Introduce e-mail access among them	improve the language skill (English/Bengali)	Others: Specify
		0.6.4 If you have any other comments on communication among Project, please write.				
	0.7 Linkage with local government (Involvement of local government)	0.7.1 What sort of attempt have you made in establishing the linkage with local government?				
		0.7.2 Do you think that the attempt worked effectively?	Not at all	Rarely	More or less	Very much
		0.7.3 Is there anything that you would like to do to establish the linkage with local government or even increase their involvement in the Project activities? Please explain:				
0.8 Behavioral Change of CP & Beneficiaries	0.8.1 According to the project report, the Project has served to effectively motivate the staff of field offices. What are the major contributing factors you can think of? 0.8.2 Please give some example (or episode) which explains above, if you know. 0.8.3 According to the project report, the Project has served to effectively motivate the field organizers. What are the major contributing factors you can think of? 0.8.4 Please give some example (or episode) which explains above, if you know. 0.8.5 According to the project report, the Project has served to effectively motivate the samity members. What are the major contributing factors you can think of? 0.8.6 Please give some example (or episode) which explains above, if you know. 0.8.7 If you have any examples which explain the behavioral change of those project staff, field organizers, samity members, please write.	Monetary reward	Training opportunities	Increase of recognition by others	Others: Specify	
		Monetary reward	Learning Opportunities	Increase of recognition by others	Others: Specify	
		Increase of income	Learning Opportunities	Increase of recognition by others	Others: Specify	
Others	0.9 Impact of external conditions  0.9.1 Is there any incidents which negatively affected the project activities? (ex. Accidents, change of government policy, etc.) 0.9.2 If yes, how have you coped with that? 0.9.3 What was the result of the above countermeasures taken?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	

Project Title : Participatory Rural Development Project through Empowerment of the Poor and Linkage with Local Public Resources in Bangladesh

Your Name:

Your Position:

3. EFFICIENCY – This is to measure how "input" has been utilized to produce "outputs", in terms of both quantity and quality, considering the appropriateness, timing, cost and benefit of the inputs. (Please select the appropriate level on the following scale that best expresses your opinion and provide reasons / comments, if any.)

EVALUATION POINTS	QUESTIONS	SUB-QUESTIONS	1	2	3	4	REASON(S)/COMMENTS
3.1 Has the Japanese Input been appropriate?	3.1.1 Japanese staff	a. Is the number of Japanese staff appropriate?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
		b. Is there any influence caused by the change of Project Director during the Project period?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
	3.1.2 Bangladesh Staff	a. Is the increase of Bangladeshi staff at Dhaka Office effective?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
		b. Is the stability of staff allocation well maintained?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
	3.1.3 Equipment Provision	a. Is the quantity of equipment appropriate?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
		b. Is the quality of equipment appropriate?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
		c. Is the provision timely proceeded?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
		c. Is the fund timely disbursed?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
	3.1.4 Local Cost Support	b. Is the amount of disbursement appropriate?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
		a. Is the number of staff of each field office appropriate?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
	3.1.5 Staff allocation to the field offices	b. Do you think that staff has been located in the right-person-in-right-place manners?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
		a. Have the Project office / field offices been well maintained?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
3.1.6 Condition of equipment / facilities	b. Has the equipment been properly maintained?	Not at all	Rarely	More or less	Very much		
	a. Which of these participation money has served effectively to increase initiatives of villagers?	Adult literacy program	Sanitary Latrine	Hand Tube Well	Road repair	Others:	
3.2 Has the Bangladeshi Input been appropriate?	b. What are the reasons?						
	a. What kind of attempt / effort have you made to get cooperation from the local government?						
3.3 Has the Input been effectively utilized?	3.3.3 local cost support	b. What is the result of the attempt?					
		a. Has the human resources(project staff) been utilized effectively ?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
		b. Have the facilities/equipment/supplies been utilized effectively ?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	
		c. Has the local cost been utilized effectively ?	Not at all	Rarely	More or less	Very much	

3.4 How to cope with the pre-conditions?	3.4.1 <To secure the appropriate facilities for the field offices >	a. Have you experienced any difficulties to secure the appropriate facilities for field offices ?	Yes, experienced much	more or less	Rarely	Not at all
		b. Please explain.				
3.4 How to cope with the pre-conditions?	3.4.2 <To Secure the appropriate staff for field organizers and project staff>	c. How did you cope with that ?				
		d. How is the condition now?	Not good enough	more or less	good	very good
		a. Have you experienced any difficulties to secure the appropriate staff for field offices and project office ?	Yes, experienced much	more or less	Rarely	Not at all
		b. Please explain.				
3.5 Comparison with other projects	3.5 Comparable projects funded by other external donors	c. How did you cope with that ?				
		d. How is the condition now?	Not good enough	more or less	good	very good
		a. Do you know any comparable projects funded by other external donors?	No	Yes: Specify		
3.5 Comparison with other projects	3.5 Comparable projects funded by other external donors	b. if yes, do you think this project is running more efficiently in comparison of that comparable project?	Not at all efficient	Rarely efficient	More or less efficient	Very efficient
		c. If your answer is No, please explain why you think so.				

4. IMPACT: This is to assess the positive and negative effects of the implementation of the project, either direct or indirect. (Please fill out blank boxes with any examples you can think of.)

EVALUATION POINTS	QUESTIONS	SUB-QUESTIONS	EXAMPLES
Has the Project had the unintended impact?	4.1 Impact on beneficiaries (Field organizers, samity members, villagers)	4.2.1 Are there any unintended positive situations produced by the project?	
		4.1.2 Are there any unintended negative situations produced by the project?	
	4.2 Impact on others than beneficiaries (ex. Local government, government policies)	4.2.1 Are there any unintended positive situations produced by the project?	
		4.2.2 Are there any unintended negative situations produced by the project?	

Comments in general

If you have any comments on this questionnaire, or final evaluation in general, please write.

Thank you so much for your cooperation.